



- ▼いきなりですが、皆さん”三次人形(みよしにんぎょう)”ってご存知ですか？
- ▼表紙写真は、三次市君田町の「君田温泉」の玄関入って正面に展示される三次人形をスマホでショットしてみました。
- ▼三次人形は、広島県三次市の伝統的工芸品で、粘土を原料とした土人形です。
- ▼広島県北部では、三月の初節句には子どもの誕生の喜びと成長への願いを託して、男の子・女の子ともに三次人形を贈る風習があり、その製造方法は、まず粘土を型にはめて成形し素焼きで焼き上げ、最後に彩色と膠(ニカワ)の塗布を行う。この表面に塗った膠が出す独特の光沢から別名「光人形」とも呼ばれています。
- ▼三次人形の製作技術は平成18年4月17日に広島県の無形文化財として指定されています。
- ▼その種類は、天神(菅原道真)の座像・立像・牛乗り・松負・梅持など数種類あり、「寝牛乗り天神」「立ち牛乗り天神」は、年賀切手の図案として採用されたそうです。
- ▼三次人形は寛永年間(1624年～1643年頃)に、三次藩主浅野長治が江戸浅草の人形師、森喜三郎を連れ帰り歴史上の勇者や伝説上の人物の土人形を作らせたことが起源とされているそうで、その裏付資料は残されていないようですが、長治は、家臣が一子をもうけるたびに、祝いとしてこの土人形を贈ったと伝わっております。
- ▼現在では、三次人形の産元は、三次市内に1戸があるのみで、歴史伝承され作り続けておられます。
- ▼改めて、歴史伝承は簡単では無いにもかかわらず、これに携わる産元に頭の下がる思いになります。

(A・N)

## contents(目次)

- ② 素敵な酪農女性
- ⑥ トピックス
- ⑫ 会議だより
- ⑬ 丹戸靖の「おいしい酪農経営の話」
- ⑮ 地域コミュニティ
- ⑯ 技術情報
- ⑰ ミルクパーラー
- ⑳ 公庫からのお知らせ
- ㉓ 家畜改良事業団からのお知らせ
- ㉔ 窓シリーズ
- ㉖ 酪農テレックス

(三月六日 三次グランドホテル)

■設立から十周年 ひろらく女性グループ連絡協議会

■天才アナウンサー 横山 雄二氏を迎え記念講演

〜六十名の参加者・絶妙なトークに場内満面の笑顔〜



演題「放送界の裏話」  
講師 株式会社中国放送「ほし」アナウンサー 横山

ひろらく女性グループ連絡協議会（委員長 岡田典子）は、平成十八年九月の設立から十年が経過しました。設立記念講演では、女優・エッセイストとしてバラエティーや執筆など多方面で活躍中であった松居一代さんをお迎えし、「元気の源は、一日三回のごはん」と題した講演は、感動と感激に包まれ、皆さんの記憶に新しいことと思います。

近年、同協議会では、小山浩子先生をお迎えしての「乳和食料理講習会」や、和田牧場「庄原市東城町」を会場に行った「MILK JAPAN in ひろしま」では、消費者との交流を目的に、牛乳を使用した「乳和食料理」をふるまい、酪農理解醸成活動など積極的な活動を展開されて来ました。

今回、同協議会は十周年を記念しての講師に 横山雄二氏（RCC中国放送アナウンサー）をお迎えし「放送界の裏話」と題する講演に、場内は終始笑いの渦に包まれました。

講演終了後、食事を交えての交流会に入り、平素の酪農作業を忘れて談笑されました。

開会



（挨拶する岡田典子委員長）

総合司会は、市川美智子副委員長が担い、岡田典子委員長の開会挨拶で始まりました。

岡田委員長は、日頃の労をねぎらう言葉、また、今年ひろらく女性グループ連絡協議会が設立から十年を迎えた節目の年であること、これまでの数々の講演、また、近年では「MILK JAPAN in ひろしま 二〇一四」での消費者の方を「乳和食」で「おもてなし」し、その翌年には「乳和食」を多くの人に知ってもらうことを目的に、小山浩子先生を講師に招き、直々の指導を頂く講習会を開催したことに触れられました。

続いて、広酪の岩竹重城代表理事組合長が来賓挨拶し、最近の酪農情勢と

して、規制改革推進会議の加工原料乳生産者補給金制度、生乳生産基盤の現状、北海道初妊牛価格の高騰などに触れ、酪農家の屋台骨を支える酪農女性に敬意を表する言葉を掛けられました。

## 第一部 講演会

### 「放送界の裏話」



(講演に熱が入る 横山アナウンサー)

岡田典子委員長が、「前日のラジオで講師の横山雄二さんがギックリ腰になったと放送されたことを知り、どうなるのかと心配していた中、元氣な姿でお越し頂くことができました」と紹介した後、ご本人登場に参加者は大きな歓声と拍手で迎え、講演に入りま



## 第一声

### 「来なければ良かった」(笑)

講演会冒頭、場内を見渡しての第一声は「来なければ良かった・・・(笑)」。

今日は、酪農女性の会と聞いて、心ときめき会場入り・・・、ところが、わら人形が・・・ぎっくり腰にもかかわらずコルセットを外してきたのに・・・とのトークから入り、いきなり場内は大爆笑から始まりました。

## 参加者が驚いた

### 横山氏の子供時代の話

実は、横山氏の祖父母は宮崎県内の酪農家。

子供時代の祖父母の家での体験、外にあるトイレに夜中行く恐怖。牛舎の横をとおって行かなければならなく、寝ているはずの牛がジ〜っと、横山少年を見つめている。

その恐怖で、牛舎でお漏らし、トイレは昔のトイレ。それが怖くてお漏らし。この姿を想像し、会場は更に笑いに包まれました。ラジオと一緒に軽妙なトークで子供時代の話が続き、会場がひとつになったタイミングで言葉の持つ力、前向きになることの大切さへと話題は変わって行きました。

ここからは、講演で印象に残った言葉等を紹介いたします。

## 楽しいことと嫌なことは 50対50、小さな幸せの ブーケを作ろう!!



(花束を送る 福原美江さん)

生きていたら嫌なことも多いが反対によつこいしょ!!と全力で明るい方向を向くと100%楽しく過ごせる。新しいことをすれば人は気づく。人は変わろうとすると人は気づいてくれる。人に会うところに行くなら洒落をちゃんとしていけばいい。人は気づいてもらうと嬉しい。嬉しいとは豊かになる。放送していく上で人が楽しいと思っているから作るのではなく、自分が楽しいから作る。本人がつまらないから若い子についてはこない。本人が魅力的なら若い子についてはくる。魅力的な人は最近の若い子は・・・とは言わない



し、逆に褒めてくれる。悪口を言えばそれが自分に帰ってくる【言葉】。だから口は汚さない。

嫌なことがあるからこそ、その中で一つ楽しみ、ご褒美をちよつとずつ集められたらいいと思う。

その楽しみ一つ一つを掻き集めていくと気づけば楽しさや小さな幸を重ねた小さなブーケが出来上がっている。

人は言葉を発し、それが言葉となり叶い、実現していく。と言葉に携われる仕事をされている立場からの「言葉の重み」を示唆されました。

### 毎年 三月には東日本大震災の被災地「石巻」を訪問

平成二十三年三月十一日午後二時四十六分に発生した東北地方太平洋沖地震とそれに伴って発生した津波並びに福島原発事故は、甚大な被害であったことに触れ、自分自身も「何かしなければ・・・」といつもたつてもいられない境地に立たされ、発生から三カ月後、被災地を訪問し、その被害の甚大さに身がすくむ思いにかられた・・・

あれから毎年、石巻を訪問し、チャリティコンサート等で得た収益金を義援金として届け、今年も皆さんから預かった二百六十六万円余の義援金を持参すると披露されました。

### なぜ「石巻」への訪問を続けてくるの・・・

平成二十三年の震災後、被災地の現状を把握するため、同地を訪問しタクシーに乗車して移動中、タクシートの運転手堀田さんの携帯電話が鳴り、その電話のやりとりが耳に入り、そこから石巻訪問は始まったと触れられました。

実は、この堀田さん、元気でタクシーの運転手をされておられる姿から、震災の影響を被られた方では無いものと想像していたとのこと。

その電話口で聞こえた堀田さんの「あ、そうか よかったな。頑張ったな。偉かったな」との言葉が気になり、横山さんは「何が良かったのですか・・・」と尋ねた。「うん、実はね、親戚の子供が海岸線から八百メートルのところまで無事見つけ出されたとの連絡だったですよ。この子はね、小学四年生で泳ぎが苦手なプール教室に通い、二十五メートルやると泳げるようになっていたんだよ」と話されたそうです。

横山さんは、「ところで、生存され見つけ出されたのですか・・・?」、堀田さん「いいえ、死んじゃって・・・」。続けて、「でも偉かったなあ、頑張ったな。褒めてやりたいよ。一生懸命、

教室で習った泳ぎで、海岸線まで泳ぐと頑張ったに違いないと・・・」。

この縁あって、微力ではあるが、毎年慰問と義援金を届けるための訪問を続けているとの紹介がありました。

会場内には、目頭を押さえてその情景を想像する参加者の姿がありました。

### 第二部『交流会』



副委員長の砂子靖子(北広島町)さんの牛乳での乾杯で交流会がスタートしました。

食事を取りながら、各テーブルでお互いの近況についてのお話、小さな子供、孫を連れられての参加もあり、話題も尽きることはありませんでした。

食事が進み少しお腹が一杯になった頃、横山雄二さんから頂いた「サイン色紙」の抽選会が行われました。

サイン色紙の当選者を選ぶ方法は、場内の参加者から募った自薦十四名が各一回の抽選に臨み、当選者を決定する方法で行い、サイン色紙の当選者が決定するたびに「わく 嬉しい・・・」「やったね」等の歓声と笑顔が溢れました。

楽しい時間はあっという間に過ぎ去り、閉会挨拶にたった鈴木道弘専務(広酪)は、「広島県出身の医師によるある講演会で「現代寿命は百歳」、「百歳まで生きられる社会にある」との話題に触れ、今後ますます元気で活躍されることに期待を求められました。【※専務の閉会挨拶に触れる紹介は、本誌七頁「かがやき」】

### 参加者からのアンケート

「久しぶりに思いっきり笑った。」「講演の内容に共感した。」「食事が美味しかった。」「杏仁豆腐」には「げんき牛乳が使われ、一番好評だった」。また「若い世代が参加できる会がもっと増えたらいい。」との意見も頂き、参考になった。

沢山の方々にご参加頂き、ありがとうございました。